

使命感

もとより、もし、あなたが、この狭（せま）い日本という国の中で、まわりを見渡すならば、あなたより「恵まれた人間」はいるかもしれません。

しかし、もし、あなたが、この日本という小さな国の中で、互いの境遇の小さな優劣（ゆうれつ）を比べることをやめ、広く世界の現状に目を向けるならば、あなたは、まぎれもなく、現在の人類の中で「恵まれた人間」であることに気がつくでしょう。

では、そのことに気がついたとき、私たちの心の中に、何が生まれてくるのでしょうか。自然に、一つの思いが生まれてきます。それは「感謝」です。なぜ感謝なのでしょう。 * 優劣 すぐれていることと、おとっていること。

私たちは、自分の人生を選んで生まれてきたわけではありません。私たちは、この日本という国に生まれようと思って生まれてきたわけではありません。この時代の日本人として生まれようと思って生まれてきたわけではありません。気がつけば、この日本という国に生まれ、日本人として生まれていたのです。そして、気がつけば、この日本という国は、恵まれた国でした。

感謝とは、恵まれた国に生まれ、恵まれた人間として生きることへの感謝です。そして、私たちが、その感謝の念を抱（いだ）くとき、自然に私たちの心に生まれてくる一つの感覚があります。それは「義務」です。

恵まれた境遇に生まれた人間には、そうした境遇に生まれなかった人々に対して為（な）すべき義務があります。そうした感覚は、自然と生まれてくるものです。それは、洋の東西を問わず、誰でもが人間として抱く、ごく自然な感覚でもあります。

義務という言葉は決してわるい言葉ではありません。しかし、この言葉には、そうしなければならないという意味での受動的で消極的なニュアンスが含まれています。

では、この義務という言葉が、受動的で消極的な意味を超え、能動的で積極的な意味へと深まっていくとき、そこには、どのような言葉が生まれるのでしょうか。それは「使命」です。「私は、そうしなければならない」という思いが深まっていくとき、「そうすることが、私の道である」という思いが生まれます。

そして、義務から使命へと、私たちの思いが深まっていくとき、そこに、「使命感」が生まれます。自分の人生が、多くの人々のために、そして、世の中のために、大切な何かを成（な）すために与えられたという使命感が生まれます。

2週にわたって「恵まれた人間」から「使命感」まで考えてみました。使命感は、皆さんの将来の進路にも影響を及ぼすものです。あるいは、皆さんの生き方を左右するものでもあります。人として何を考え、どのように生きるのか、今のうちから少しずつ考えていきましょう。